

地震の石碑復刻版の紹介

本多 亮 (神奈川県温泉地学研究所)

はじめに

温泉地学研究所の観測だよりのページをめくると、1970年代から90年代にかけて、「地震の石碑」という記事があります。この記事は、温泉地学研究所の元所長である平野富雄氏らが、自らの足で訪ね歩いた石碑などについてまとめたものです。石碑には、1923年の関東大震災をはじめさまざまな地震・火山災害に関する出来事が刻まれ、地震・火山災害のおそろしさとともに、地域を復興させていく人々の力強さを知ることができます。

これまで過去の観測だよりは一部を除いて pdf 化されておらず、一般の方の目に留まる機会が多くありませんでした。そこで、今回復刻版として、70年代から90年代に掲載されたオリジナルの記事を pdf ファイル化し、HP で公開するとともに、2012年現在の石碑の状況取材し

てまとめました。

とりあげられている石碑の概要

観測だよりに掲載された石碑の記事は全部で28回あります(表1)。最初の3回は「ボクのいしづみ巡り」と題されて、観測だよりの前身であるなまず通信に掲載されました。その後、第4回からは不定期で観測だよりに掲載されています。取り上げられている石碑は73個(図1)で、内訳は地震と復興の記録が60%、供養塔などが18%、その他地震の遺構などが22%となっています(図2)。また、記述されている地震は、1923年の大正関東地震がおよそ8割を占め、元禄関東地震や宝永東海地震・富士山の宝永噴火に関するもの、小田原地震に関するものが数%程度ずつとなっています。また取り上げられている石碑の分布ですが、7割が県西部地域、とりわけ南足柄

市と山北町周辺に集中しています(図1)。

この「地震の石碑」シリーズでは、地震の直接の被害というよりも、その後の土砂崩れや水害に関する石碑を多く取り上げていることが特色のひとつです。そのような石碑は県西部に多く存在しますが、理由のひとつとして、神奈川県がフィリピン海プレートと陸のプレートの衝突する場所にあるという地域の特性が考えられます。

神奈川県西部地域では、二つのプレートの衝突に伴って急峻な山地が形成され、そこから流れ出る河川の流域に人々が生活しています。そして、プレート境界が陸域付近に存在するため、規模の大きなプレート境界地震が陸域直下で発生します。そのため、ひとたびプレート境界で地震が発生すると広域で大きな揺れとなり、土砂崩れが頻発しま

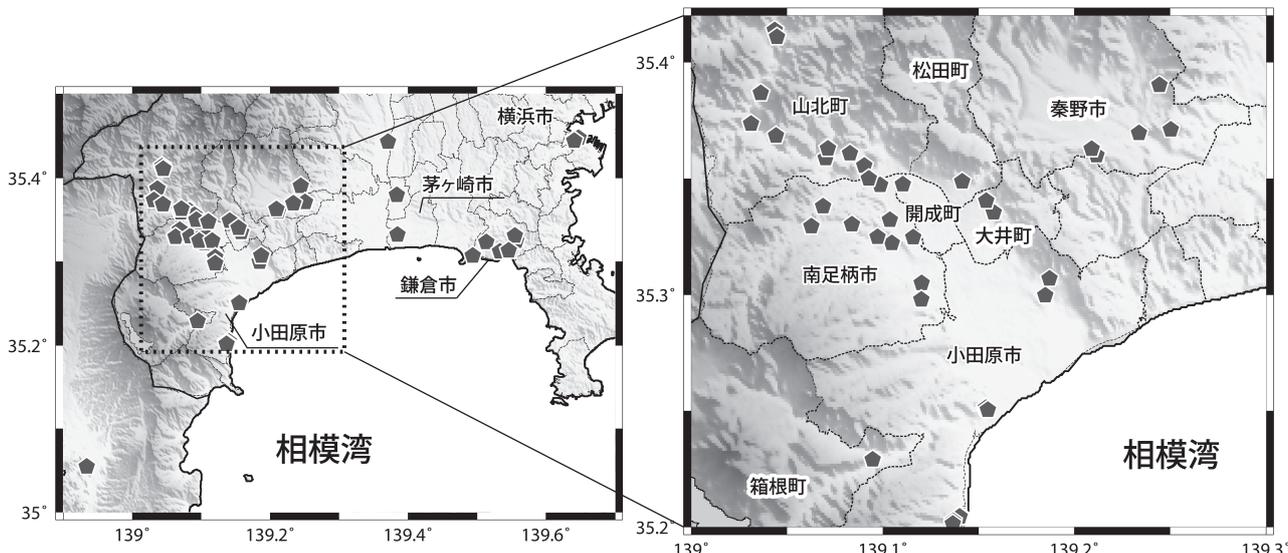


図1 地震の石碑シリーズで取り上げられた、石碑の分布図。

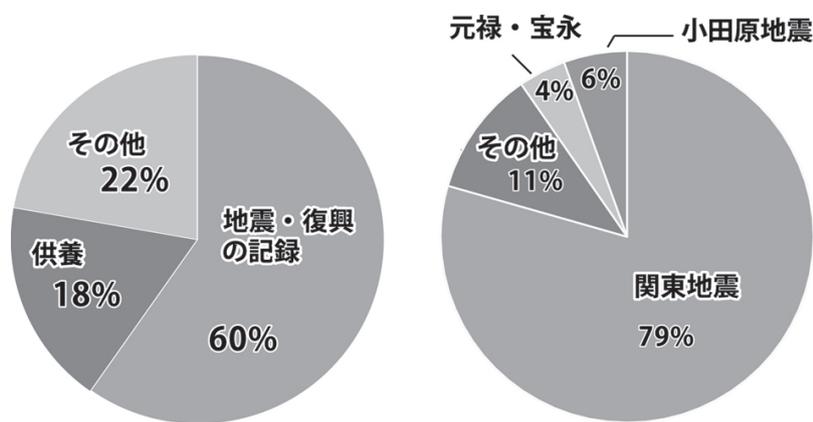


図2 石碑のうわけ

表1 記事のリストと発行年

N o.	発行年	記事
1-3	1977	ボクのいしづみ巡り
4	1977	横浜地方裁判所の慰霊碑
5	1977	延命寺境内の水道記念碑
6	1977	震生湖と寺田真彦句碑
7	1978	寒川神社
8	1978	「あゝ九月一日」碑
9	1978	小田原市千代の「震災復興記念」碑
10	1979	山北町用沢の不動堤之碑
11	1979	南足柄内山の震災復興碑
12	1980	鎌倉八幡宮の大鳥居
13	1980	北伊豆地震の地震動の擦痕
14	1980	鎌倉建長寺
15	1980	腰越・長谷・和田塚
16	1981	横浜公園・山下公園
17	1981	尾崎一雄と壊れた鳥居
18	1982	旧相模川橋脚
19	1983	根府川駅周辺の地震の石碑(1)
20	1986	箱根湯本の玉簾の滝
21	1990	秦野市内の地震の石碑
22	1991	根府川駅周辺の地震の石碑(2)
23	1992	南足柄市内の地震の石碑 (その1)
24	1993	南足柄市内の地震の石碑 (その2)
25	1994	小田原城の地震の記念碑
26	1995	足柄上郡山北町清水地区および三保地区の地震の記念碑
27	1996	足柄上郡山北町山北地区の地震の記念碑
28	1997	関東大地震後の飲料水不足が契機となった足柄上地区の簡易水道の敷設

す。実際、大正関東地震の際に丹沢の山腹崩壊の面積は全山の約20% (6000ha) に達したといわれています。また、丹沢山地や箱根は雨の多いことでも知られ、年間雨量はおおよそ3000mm程度で横浜付近の倍近くあります。この雨は、丹沢山地や周辺の山々の地下水を涵養し、恵みの雨ともなりますが、地震後には大規模な水害も発生させるのです。

平野富雄さんは記事の中で、「関東大地震のようなM (マグニチュード) : 8級の巨大地震で大きく揺れ

る時間はたかだか1分程度である。しかし、地震による山地の崩壊が原因となって、それ以後何年にもわたって出水の被害が続いたことを忘れてはならないだろう。」と書いています。その例として、酒匂川の文命堤碑を簡単に紹介します。

文命西堤碑と東堤碑

文命堤碑は、1703年の元禄関東地震とそれに続く1707年の富士山宝永噴火の影響によって決壊した、酒匂川の堤防修復を記念して建てら

れたものです。これらの石碑は、酒匂川の岩流瀬堤と大口堤にあり、酒匂川の治水事業の歴史上、もっとも有名なものとされています。

酒匂川は1703年の元禄地震に起因する土砂崩れや、1707年の富士山噴火の降灰によって河床があがり、1708年の増水によって大口堤、岩流瀬堤が決壊し、足柄平野全体が浸水します。いくどか小田原藩によって工事が行われますが、たびたび決壊を繰り返し、小田原藩は遂に領地の半分を天領として幕府に差し出し、以後、幕府が工事を引き継ぐこととなります。すなわち、酒匂川の治水事業は、日本で初めての国家主導の大規模災害復興事業ということになります。1726年に田中丘隅が責任者に任命され、酒匂川の治水工事に乗り出し破損した堤防を修復します。丘隅は、「弁慶杵」など当時最新の技術を用いて堤防の修復にあたりました。そして堤防の竣工に際して建てられたのが、文命堤碑です。文命堤碑とともに建てられたという文命宮は別名禹王廟 (うおうびょう) といい、黄河の氾濫を治めた中国の治水の神、禹の祠 (夏の禹王の字名が文命) とされています。堤竣工の際に文命宮を祀ったのは、禹王廟をたてて加茂川の安全を祈願した京都の故事に倣ったものとされています (大脇、2007)。しかし、丘隅らの努力にもかかわらず、この後もたびたび足柄平野は洪水にみまわれ、小田原藩に領土が戻されるのは1783年、実に地震から80年以上が経過してからでした。

文命碑と文命宮は、西堤 (岩流瀬堤) と東堤 (大口堤) に1対ずつ建てられましたが、東堤の文命宮は1909年以降、行方不明となっていました。近年、その一部である笠石らしきものが発見され (大脇、2007)、現在は復元されたものが文

- トップ
- お知らせ
- トピックス
- 研究所紹介
- 基礎講座シリーズ
 - 講座一覧
 - 温泉を知ろう
 - 地震の石碑 復刻版 (2012)
- 温泉の依頼分析・調査
- 地震・地殻変動データ
- 刊行物
- 研究所に関する資料
- リンク集
- サイトマップ

トップ > 地震の石碑 復刻版 (2012) > 石碑リスト



温泉地学研究所の観測便りのページをめくると、1970年代から90年代にかけて、「地震の石碑」といふ記事があります。この記事は、温泉地学研究所の研究者であり所長も務めた平野富雄氏が、自らの足で訪ね歩いた石碑などについてまとめたものです。石碑には、1923年の関東大震災をはじめさまざまな地震・火山災害に関する出来事が刻まれ、地震・火山災害のおそろしさとともに、地域を復興させていく人々の力強さを知ることができます。
復刻版では、オリジナルの記事をpdfファイルとしてリンクし、さらに2012年現在の状況を取材してまとめました。

石碑のリスト

記事リンクから、オリジナル記事のPDFファイルへリンクすることができます。また、取材メモのえんぴつをクリックすると、現在の石碑の状況の紹介ページが見られます。紹介ページからも、PDFファイルへのリンクがあります。

No.	元記事(pdf)へのリンク	関係する地震	取材メモ	No.	元記事(pdf)へのリンク	関係する地震	取材メモ
01-03	ボクのおいしぶみ巡り 1~3	1923年 関東地震	🖋️	20	箱根湯本の玉簾の滝	1923年 関東地震	🖋️
04	横浜地方裁判所の慰霊碑	1923年 関東地震	🖋️	21	秦野市内の地震の石碑	1923年 関東地震	🖋️
05	延命寺境内の水道記念碑	1923年 関東地震	🖋️	22	根府川駅周辺の地震の石碑(2)	1923年 関東地震	🖋️
06	震生湖と寺田富彦句碑	1923年 関東地震	🖋️	23	南足柄市内の地震の石碑(その1)	1923年 関東地震 1859年 安政5年の地震(未確認)	🖋️
07	寒川神社 -ノ鳥居の笠木	1923年 関東地震	🖋️	24	南足柄市内の地震の石碑(その2)	1923年 関東地震 1859年 安政5年の地震(未確認)	🖋️
08	「あゝ九月一日」碑	1923年 関東地震	🖋️	25	小田原城の地震の記念碑	1923年 関東地震 1703年元禄関東地震	🖋️
09	小田原市千代の「震災復興記念」碑	1923年 関東地震	🖋️	26	足柄上郡山北町清水地区および三保地区の地震の記念碑	1923年 関東地震 1543年 天文12年の地震(未確認)	🖋️
10	山北町用沢の不動堤之碑	1923年 関東地震	🖋️	27	足柄上郡山北町山北地区の地震の記念碑	1923年 関東地震 1703年 元禄関東地震 1707年 宝永東海地震・富士山噴	🖋️
11	南足柄内山の震災復興碑	1923年 関東地震	🖋️				
12	鎌倉八幡宮の大鳥居	1923年 関東地震	🖋️				
13	北伊豆地震の地震動の標痕	1930年 北伊豆地震	🖋️				
14	鎌倉建長寺	1923年 関東地震	🖋️				
15	鷹越・長谷・和田塚	1923年 関東地震	🖋️				
16	横浜公園・山下公園	1923年 関東地震	🖋️				
17	尾崎一雄と壊れた鳥居	1923年 関東地震	🖋️				
18	旧相模川橋脚	1923年 関東地震	🖋️				
19	根府川駅周辺の地震の石碑(1)	1923年 関東地震	🖋️				



地震に関連するような異常な現象(地面の揺れ、地下水・温泉の変化など)にお気づきの方は、下記までご連絡ください。

〒250-0031 小田原市入生田585
神奈川県温泉地学研究所
TEL:0465-23-3588
FAX:0465-23-3589

お問い合わせはこちらのフォームメールをご利用ください。



図3 地震の石碑復刻版 HP

命東碑とともに、福澤神社に祀られています。

おわりに

地震の石碑は単なる被災記録だけでなく、その土地に生活する人たちの歴史の記録でもあります。今回、

地震の石碑シリーズを復刻するに当たり、元記事を読みなおし現在の石碑の状況を取材しました。そうした作業は、地震そのものだけでなく、地震が発生した時代やその前後の地域の状況などについても勉強する良い機会になりました。同じように、

この記事の読者が、石碑をきっかけに郷土の歴史や地域の地学的特徴についても興味を持ち理解を深めることで、自然に防災に対する意識も高まっていくことを期待します。これは、ライアン・杉原(2011)のいう、「防災といわない防災」にも通

温泉地学研究所

- ホーム
- お知らせ
- トピックス
- 研究所紹介
- 基礎講座シリーズ
 - 講座一覧
 - 温泉を知ろう
 - 地震の石碑 復刻版 (2012)
- 温泉の依頼分析・調査
- 地震・地殻変動データ
- 刊行物
- 研究所に関する資料
- リンク集
- サイトマップ
- ご案内

トップ > 地震の石碑 復刻版 (2012) > 石碑No.28 足柄上地区の簡易水道の敷設



地震の石碑 No28
関東大地震後の飲料水不足が契機となった
足柄上地区の簡易水道の敷設

関東大地震後の飲料水不足が契機となった
足柄上地区の簡易水道の敷設

目次

1 はじめに
 本書は関東地方の震災被害、山崩れ、津波、火災、大規模な
 地震被害の発生が足柄上地区でも発生した。これまで、足柄上地
 区内の簡易水道と山崩れの被害の調査については、ほぼ報告を
 終えている。
 その後も引き続き発生した地震被害の調査を進めているが、そ
 れぞれの管内に属している簡易水道はそう多くない。しかし、それ
 の調査が、これまでの地震被害調査や山崩れの調査と比べてかなり
 遅れているのが現状である。本書によっても、それらの被害の被害
 の多いが、本書に収録されているものである。

図1 足柄上地区の地形、道路、簡易水道の分布と調査対象の位置

所在地	南足柄市、開成町、松田町、大井町
交通	JR御殿場線松田駅周辺。
関連する史跡	<ul style="list-style-type: none"> 円蔵院境内の南水道記念碑 最明寺境内の簡易水道記念碑 松田町総領・延命寺境内の水道記念碑 橋境上水道記念碑
元記事	温泉地学研究所 観測便り第47巻 1997(平成9)年発行

地震に関連するような異常な現象(地面の揺れ、地下水・温泉の変化など)にお気づきの方は、下記までご連絡ください。

〒250-0031 小田原市入生田585
 神奈川県温泉地学研究所
 TEL:0465-23-3588
 FAX:0465-23-3589

お問い合わせはこちらのフォームをご利用ください。



取材メモ

ここでは、開成、大井、松田、南足柄の石碑を紹介しますが、延命寺境内の水道記念碑については、現在の写真が「地震の石碑No 5」にあります。

JR御殿場線相模金子駅から、大磯丘陵の方向に進み、国道255号線を渡って突き当たり左折して100mほどいくと、右手の奥に円蔵院がある。基地の一角に南水道記念碑がある。



図4 地震の石碑復刻版 HP

じると思います。pdf 化されたオリジナル記事と、今回新たに撮りなおした写真などは HP でご覧いただけます(図 3、4)。地震の石碑復刻版が、少しでも読者の防災意識の向上に役に立てば幸いです。

謝辞

今回、紙に書かれていた石碑の記

事を pdf 化し、現在の石碑の状況を取材するに当たり、多くのかたのご協力をいただきました。とりわけ、現地取材を精力的にこなしていただいた井上和久さんと、HP の作成を手伝っていただいた大石真由美さんには、大変お世話になりました。ここに記して感謝いたします。

参考文献

大脇良夫(2007) 酒匂川の治水神(文命宮=禹王廟)は、京都・鴨川そして中国・黄河を結ぶ文化の架け橋, 酒匂川, 42, 9-17.
 ライアンセイヤー・杉原英和(2011) 外国人観光客にとっての箱根の地震・火山防災対策に関する一考察, 観測だより, 61, 17-26.